

活動一覧

主要活動の成果
2024



IPPFとは？

IPPFは世界のすべての人々のセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（SRHR）を守るために政策提言と関連サービス提供を行う国際NGOです
世界140カ国以上で、コミュニティと個人と共に、そしてコミュニティと個人のために活動する各国の組織をとりまとめる連盟です

人を中心としたケア



2億3,050万件
のSRHサービスを提供しました
↑3.6%

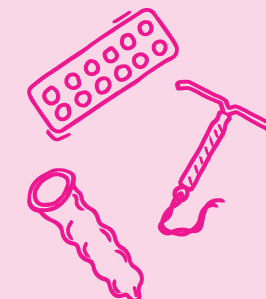
460万件
の性とジェンダーに基づく
暴力のケアを提供しました
↑26.6%

2,700万件
のHIV関連サービスを提供しました
↑15.9%

650万件
の中絶医療サービスを提供しました
↑10%

310万件
のデジタルヘルスサービスを提供しました
↑1,283%

6,750万人 総利用者数



1,920万
のCYP(カップルに対する避妊法の
年間総供給量)を提供しました
↑9.7%

10人中8人
貧しく周縁化された人々

1,400万人
人道危機下の人々

3,090万人
10歳から24歳の人々

1,110万人
10歳から19歳の人々

IPPF 主要な成果 2024

920万件
の意図しない妊娠を防ぎました

280万件
の安全でない中絶を防ぎました

990万
の障害調整生存年数(DALYs)
損失を回避しました

6億2,760万米ドル
の直接医療費を節約しました

連盟を育む

活動領域の拡大

90% の避妊に対するアンメットニーズが最も高い国、または人間開発指数（HDI）が最も低い国に加盟協会があります

若者のリーダーシップの強化

82% の加盟協会で理事会に1名以上の若者が参加しています

システムの近代化

87% の加盟協会がクライアントベースの電子カルテシステム(CMIS)を80%以上の常設診療所に導入しています

資金の調達と持続可能性の確保

44% の現地収入（加盟協会の各国収入）を、社会的企業活動を通じて得ました

1億2,520万米ドル
の活動資金をIPPF事務局が確保しました

IPPFと加盟協会の活動へのご支援やご問合せについては、IPPFのホームページ（www.ippf.org/jp）をご覧ください。
2025年7月 国際家族計画連盟（IPPF）発行

4 Newhams Row, London SE1 3UZ, UK
T: +44 (0)20 7939 8200
F: +44 (0)20 7939 8300

英国慈善団体登録番号 229476

セクシュアリティ・アジェンダを変える

ラテンアメリカでのアドボカシー活動

ラテンアメリカでは、IPPF 加盟協会（MA）や協力パートナー（CP）が、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（SRHR）やジェンダー平等の弱体化を試みる反人権運動への対抗勢力として、中心的役割を担っています。

ボリビアでは、とりわけ先住民や農村部に居住する女性や女兒が暴力を受ける割合が高くなっています。

反人権団体は、2013 年に可決された画期的な女性の人権法を、「男性の権利を脅かし家族を崩壊させる」として覆そうと試みました。女性が暴力から逃れて生きようとする権利を脅かし、司法へのアクセスを失くすような改定案を提出したのです。

これに対し、IPPF ボリビア (Colectivo Rebeldia) が女性団体と協力して 2024 年 5 月に上院議長にはたらきかけた結果、議長は法の基盤となっている理念の支持を再表明しました。IPPF ボリビアと国内の 200 を超えるフェミニスト団体や活動家らは全国で行動も起こし、この法を強く支持すると共に完全な実施を求めました。

アルゼンチンでは、IPPF の協力パートナーである Fundación Derechos Humanos Equidad y Género (FunDheg) が、セクシュアル・リプロダクティブ・ライツを脅かし、トランスジェンダーや多様なジェンダーの人びとを差別する退行的な動きに抵抗しました。FunDheg は、2024 年初めに国の政策立案者に実証的なデータや論拠を提出し、この情報が差別的な法改正に関する国会審議で使用されました。こうした FunDheg とパートナー団体の迅速な行動により、セクシュアル・リプロダクティブ・ライツやジェンダー平等を後退させる試みは、阻止されました。

変革への連帯

モロッコのリプロダクティブ・バイオレンスへの対応

リプロダクティブ・バイオレンス（生殖に関する暴力）は、強制妊娠、強制中絶、強制避妊や強制不妊手術のみならず、避妊へのアクセスを制限することや中絶へのアクセス禁止など、性や生殖に関する自己決定権を侵害する行為を指し、女性や女兒の心身に深い傷跡を残しその後の生活に悪影響を与えます。加盟協会の IPPF モロッコ (Association Marocaine de Planification Familiale: AMPF) がアイルランドのトリニティ・カレッジ・ダブリン (Trinity College Dublin) と提携してモロッコにおけるリプロダクティブ・バイオレンスの実態調査を行い、これまで女性や移民・難民がどのような暴力を受けてきたかについて、その内容を明らかにしました。

調査によると、回答した女性のうち 22%が、少なくとも一つの形態のリプロダクティブ・バイオレンスを受けた経験があることがわかりました。最も多かったのは、妊娠できなかった際に、夫から離婚すると脅迫されるというものでした。息子よりも娘の数が多いことも、女性へのリプロダクティブ・バイオレンスにつながりやすいことがわかり、男子の出生を好む社会的傾向が、女性に出産を継続して行う重圧を与えていることが明らかにになりました。

この極めて重要な調査は、モロッコのリプロダクティブ・バイオレンスは、複雑かつ社会規範に深く根ざしていることを明示しました。結果を踏まえ、IPPF モロッコではリプロダクティブ・バイオレンスの根本的な原因に対応し、リプロダクティブ・バイオレンス特定ツールの開発や、行政のセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス政策に統合させる働きかけを計画しています。

スリナム共和国の包括的性教育

南米北東部のスリナム共和国では、IPPF スリナム (Stichting Lobi Health Center : Lobi) が、障害のある若者や支援が届きにくい遠隔地の若者に革新的な方法で包括的性教育（CSE）を提供しています。IPPF スリナムは、すべての人びとのニーズに対応した CSE を提供するため、オリジナルの教材を開発するとともに、教師、保護者・介護者、医療従事者への研修を実施しています。

IPPF スリナムは、聴覚障害を持つ若者や遠隔地に住む若者と共に活動する団体から要望を受け、それぞれのニーズを検討し、独自の CSE マニュアルを作成しました。聴覚障害のある若者に対しては、視覚的な効果を重視し、手話を取り入れたコンテンツを開発しました。正規の教育を受けづらい遠隔地に住む若者には、文字を最小限に抑え、明解かつ視覚的な教材を制作しました。仲間からのプレッシャーや人間関係についての短編アニメ作品や、避妊やコンドームの使用法についてのカラフルな啓発ポスター、ロールプレイ演習などのリソースも利用可能となりました。

これらの取り組みには大きな効果が期待されるため、他の周縁化されたグループにも実施していくことが検討されています。



サントメ・プリンシペの HIV・STI 検査推進キャンペーン

中央アフリカの島国、サントメ・プリンシペ民主共和国の IPPF 加盟協会 (Associação Santomense para Promoção Familiar : ASPF) は、周縁化され、脆弱な状況に置かれた人びとの SRHR に対する認識を高めるため、2024 年に 2 つのキャンペーンを実施しました。

IPPF サントメ・プリンシペは、ポルトガル語圏諸国の 7 つの市民社会団体と協力し、Nós Fazemos o Testes! (検査を受けよう!) キャンペーンを実施し、クリニックで HIV、STI (性感染症) やその他の感染症の検査を呼びかけました。キャンペーンは男性と性交をする男性 (MSM) やセックスワーカーを含む周縁化されたグループを対象とし、5,000 件の HIV 検査、2,000 件の梅毒検査が実施され、国内で 144,000 個以上のコンドームが配布され、大きな成果を上げました。

さらに他の市民社会団体と協力し、HIV 予防の選択肢についての人びとの意識を高めるため、PrEP（曝露前予防内服）やコンドームの啓発活動を行いました。Estás PrEPParada? Com PrEP, Sem Stress! (PrEP の準備はいい? PrEP でノーストレス!) と銘打たれたこのキャンペーンは、男性と性交をする男性 (MSM) やセックスワーカー向けの HIV 予防と継続的な PrEP 使用の奨励を目的とし、ピア・エドьюケーターやサービス提供者との対面セッションに 2,442 人の男性と 3,089 人の女性が参加し、39,750 個のコンドームが配布されました。

101

の政策や法律の改正により、SRHR を推進・擁護しました

90

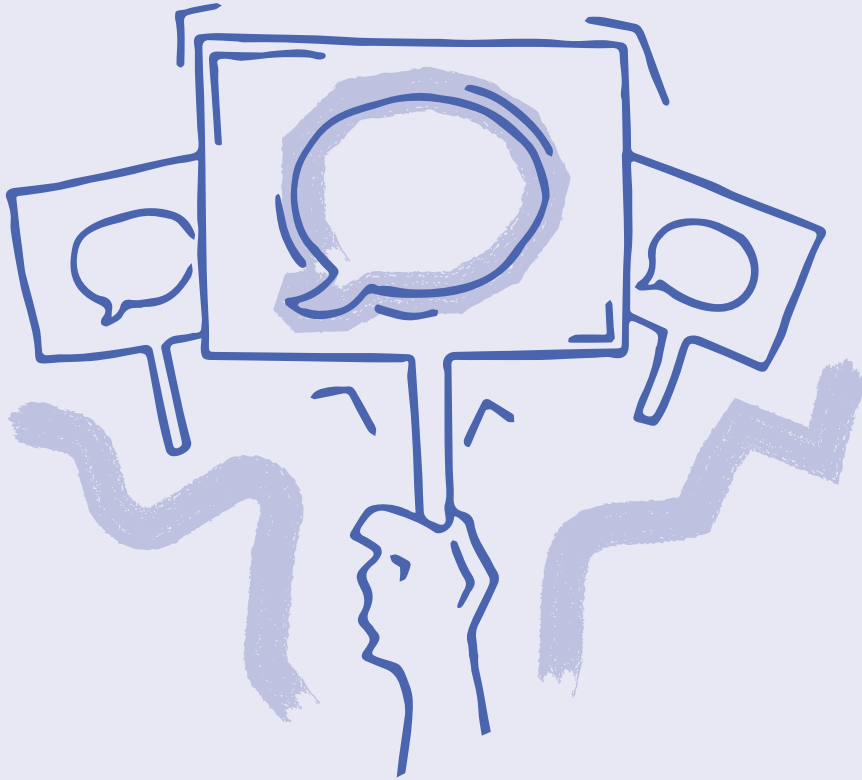
のキャンペーンが IPPF 全体で実施されました

41

のキャンペーンが他の SRHR 団体と協働で実施されました

23

のキャンペーンが SRHR 分野以外の団体と協働で実施されました



人を中心としたケア

すべての人に寄り添ったサービスの提供

IPPF は、最も支援を必要とする人びとに質の高いセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス（SRH）サービスを提供することに全力を尽くしています。事務局は、加盟協会に技術面のアドバイスも行っています。IPPF は 2022 年に「サービス利用者中心の臨床ケアガイドライン（Client-Centred Clinical Care Guidelines）」を発表しました。本ガイドラインは、サービス提供の全領域を対象とし、加盟協会によるサービスモデルがエビデンスに基づいていることを保障するものです。

さらに、事務局は特定のケア分野についての IMAP（International Medical Advisory Panel*）声明も発行しています。IMAP 声明は、新たなエビデンスが発表された際や、IPPF がサービスを提供する人びとやコミュニティのニーズを反映させるために作成されます。2024 年には妊娠 13 週以降の中絶ケアの重要性に関する声明を発表しました。これは、IPPF カメルーン（CAMNAFAW）などの加盟協会が質の高い中絶ケアを提供するため、サービス提供者の研修や臨床医の技術向上、理念の明確化と変革についてのワークショップなどを実施するための直接的な支援です。今後の

*IPPF の医療・科学的専門家からなる諮問委員会

人道危機への対応

IPPF は、紛争、気候危機や不安定な経済に対応するため、40 カ国で女性や女兒、周縁化されたコミュニティの命を救う SRH サービスやジェンダーに基づく暴力（GBV）に対応するサービスへのアクセスを拡大し、地域主導型の人道支援活動を強化しました。

ウクライナ

2024 年、ウクライナはロシアの侵攻から 3 年目を迎えました。依然として女性と女兒はより深刻な影響を受けつづけています。紛争は、妊娠婦の健康に深刻な打撃を与え、パートナー以外からの性的暴力を含め、GBV が増加しています。

2024 年も IPPF は IPPF ウクライナ (Women Health and Family Planning : WHFP) と協力して活動しました。IPPF ウクライナは日本政府からの支援を受け、ドニプロおよびザポリージャ地域の公立病院を通じて避妊具（薬）、中絶ケア、婦人科系ケア、包括的緊急産科・新生児ケア、必須医薬品などを提供しました。さらに、136 人の医療従事者が緊急産科ケアの研修を受けた結果、2024 年中に約 4,000 人の赤ちゃんが無事に生まれました。

また、IPPF ウクライナは GBV のサバイバーケアを優先事項とし、201 人の医療従事者がサバイバーの初期支援のケアに関する研修を受けました。約 10 万人が SRH ヘルスケアを受け、SRHR や関連サービスについての重要な情報を得る機会となる啓発キャンペーンには 300 万人以上が参加しました。これらの取り組みにより、紛争が継続する中でも、女性や女兒が命を救うケアや支援を受けられています。



IMAP 声明は、不妊治療やセックスワーカーへの SRH サービスなどに焦点を当てていきます。

IPPF は、SRHR へのアクセスは特権ではなく、基本的人権だと考えます。だからこそ、貧困層や、周縁化された人びと、若者など、社会から取り残されやすい人びとを支援することに深くコミットしています。2024 年のサービス利用者 6,750 万人のうち、10 人中 8 人は貧困層や周縁化された人びとでした。ほぼ半数が 25 歳未満、1,110 万人が 19 歳未満でした。

IPPF は、サービス利用者が誰であろうが、どこに支援のギャップが存在するのかを追求しつづけています。2024 年、さまざまな地域と状況にある 20 の加盟協会と実施した調査により、各加盟協会がどのように周縁化されたコミュニティを特定しているかについて、貴重な知見を得ることができました。これからもすべての人びとに、よりよいサービスを提供できるよう、利用者に関するデータ収集とその活用方法を改善・拡大していきます。

レバノン

2024 年 9 月に南レバノンがイスラエル軍の攻撃を受けたことで、IPPF レバノン (Lebanese Association for Family Health: SALAMA) はベカー地区の 2 つのクリニックを閉鎖し、スタッフは避難を余儀なくされました。多くの困難を抱える中でも IPPF レバノンは必要不可欠な SRH サービスを提供し続け、機動性のあるコミュニティベースの支援に切り替えました。若者ボランティア、地方自治体、NGO 団体や国際パートナーと密接に協力することにより、IPPF レバノンはサービス提供を継続し、人道危機下の地域主導対応の重要性を再確認しました。

2024 年 10 月から 12 月にかけて、IPPF レバノンは IPPF の人道危機対応基金 (Humanitarian Emergency Response Fund) の支援を受け、5,609 人に SRH サービスを提供しました。さらに 7,000 人の避難民に、SRH、衛生問題、GBV に関する情報を提供し、6,711 個の避妊具（薬）を配布、700 回の啓発セッションを実施しました。さらに、国内避難民 (IDP) のトラウマやメンタルヘルス関連のニーズに対応するため、200 回の心理社会的支援セッションも実施しました。また、IPPF レバノンの移動診療チームは、3,500 個のディグニティ・キット (女性支援キット) を配布、女性や女兒に必要な衛生用品が支給されました。

危機下で、周縁化された人びとは医療にアクセスする上で通常時よりさらに大きな障壁に直面するため、IPPF レバノンは地域のマイノリティ支援市民社会団体 Proud Lebanon と協力し、800 人以上の LGBTQI+ の人びとに HIV 感染を予防する曝露後予防 (PEP) などの SRH サービスや心理社会的支援を提供しました。

